

研究課題： 当院救急室を受診した小児アナフィラキシー患者の検討

1. 研究の目的

近年食物アレルギーは増加傾向にあり、それに伴い救急外来を受診する小児アナフィラキシーの患者さまも増加しています。食物アレルギーの分野においては、この 10 年で原因となる食物の一部変化や経口免疫療法の広がり、発症予防として卵など乳児期早期摂取が推奨されるなど診療に大きな変化が起きています。その中で、低年齢層のアナフィラキシーの増加、繰り返す再発、エピペンの処方や使用率の低さなど未解決な問題も指摘されています。当院救急外来を受診されるアナフィラキシー患者さまの現状を改めて把握することで、治療や予防に関する課題や改善方法を検討し今後の診療に反映させることを目的とします。

2. 研究の方法

[研究方法]

埼玉県立小児医療センターの電子診療録を用いて、過去 5 年間における当院救急外来を受診した小児アナフィラキシー症例を後方視的に検討します。診療情報を匿名化したうえで解析します。

[研究対象者・対象となる期間]

2017 年 1 月から 2021 年 12 月までの間に埼玉県立小児医療センターの救急外来に急性アレルギー反応で受診された患者さまのうち、アナフィラキシーと診断された方が対象です。

[匿名化の方法]

診療情報には、患者さま ID とは別に匿名番号を付与し、患者さまの個人情報がかからないように匿名番号を用いて解析します。

3. 研究期間

埼玉県立小児医療センター倫理委員会承認後から 2023 年 3 月 31 日まで

4. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録をもとに以下の項目を調査します。

年齢、性別、体重、基礎疾患、誘因、症状、治療、エピペンの処方・使用の有無

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

研究に用いる資料・情報を外部に提供することは、一切ございません。患者

さまの個人情報と匿名化番号との対応表は当施設内で厳重に保管します。研究結果の公表は、提供者本人及び家族等の氏名等が明らかにならないように十分に配慮した上で、学会発表や学術雑誌等で公に発表します。

6. 研究組織（研究責任者、研究分担者等）

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：感染免疫・アレルギー科 医長 佐藤 智

研究分担者：感染免疫・アレルギー科 科長 菅沼 栄介

感染免疫・アレルギー科 研修医 南部 明華

小児救命救急センターセンター長 植田 育也

7. お問い合わせ先・研究への参加を拒否する場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さまもしくは患者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2023年3月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）